

令和6年度
赤穂市立赤穂中学校
「学校だより」

荒神台

NO.133
令和7年1月号
文責 校長 小溝健二

2025年の幕開け！良い年になりますように。



【3学期始業式 式辞より】

あけましておめでとうございます。2025年が始まりました。「一年の計は元旦にあり」何事も最初が肝心です。自分の目標に向かって、今の「がんばろう！」という気持ちを1日でも長く持ち続けてほしいと思います。

今年は「巳（み）」年。詳しくは「乙巳（きのとみ）」の年で、柔軟性と適応力を象徴する「乙（きのと）」と、再生と変化を意味する蛇を表す「巳」が組み合わさっています。この年は、努力を重ねて物事が「実」を結ぶ、縁起の良い年ともされています。どうか自分の夢や理想に向けて、日々の努力を続け、成功を勝ち取る強い赤中生になってください。

また、今年の1月17日は阪神淡路大震災から30年目にあたります。長い年月をかけて、兵庫県は力強い復興を遂げてきました。そこに暮

らす私たちは、震災の記憶を大切にし、次の、そしてその次の世代へと、経験と知恵を伝えていかねばなりません。いつかあなたの方の番が来ます。みんなが中心になって、この社会を支えていくときが来ます。今から少しずつ努力し、誰かの役に立てる自分を創ってください。

さて、3学期です。3ヶ月足らずのこの学期は1年の締めくくりの学期です。同時に、3年生は高校や新しい進路への、1・2年生は2・3年生への助走を始める学期です。3カ月後、1年後になりたい自分のイメージはありますか。願えば叶う。理想を高く持ち、自分にとって必要な努力を、毎日続けてください。今日からの3学期が勇気ある失敗と数多くの成功に溢れた学期になるように、そして、みんなの人生もそんな前向きな歩みの連続であるよう願っています。主役は自分です。がんばりましょう。

「災害は忘れた頃にやってくる。」 みんなで語り継ごう。今できることを今すぐやろう！

去年の元日、能登半島地震が発災しました。地震被害の爪痕はいつまでも大きく、未だ手つかずの地域も多いのです。被災地の1日も早い復興を願います。

今年の1月17日は、阪神淡路大震災から30年の節目の日です。大自然に対して私たちにできることは限られていますが、大切な生命を守るよう、少しでも被害が減らせるよう、今からできる準備があります。正しい知識をもち、情報を集め、自分や家族を守りましょう。他者と助け合いができる、心身の態勢を整えて日々を丁寧に過ごしていきましょう。【裏面に震災祈念講演会報告】



地震や災害に備えよう！ 震災祈念講演会と避難訓練を行いました。



学年ごとに分かれての講演会では、2年生は避難所での簡易トイレづくり、1年生は段ボールベッドづくりと徒手搬送法を学びました。いざというときに備えて、みんなで一生懸命に取り組みました。災害が起きたときには、自分を守りつつ、他の人を救う、「自助、共助、公助」の精神を大切にしたいです。良い訓練になりましたね。



次期の生徒会メンバーが決まりました。先輩の思いを繋いでいこう！

書記

やまさきそうま
山崎壮馬さん



副会長

みずもりあんず
水守晏珠さん



会長

あらきはるゆき
荒木陽幸さん



副会長

いのべさとし
射延啓志さん



書記

たぶち りこ
田淵莉子さん



12月11日に来年度の生徒会幹事を選出する生徒会選挙がありました。9名の2年生が立候補し、立会演説会では、ひとり一人が赤穂中学校の未来に向けた演説を行いました。演説内容やそれを聞く側の雰囲気も素晴らしく、次年度への意気込みがひしひしと感じられました。厳選な投開票の結果、新しい生徒会メンバーが決まりました。上記の5名を中心

に、令和7年度の生徒会が活動します。現生徒会の熱意ある姿勢やこの1年間の活動内容を指針として、新メンバーもしっかりと活動してくれることと確信します。今年に入り、各専門部の部長選考も着々と進みつつあります。そこで選ばれたメンバーと力を合わせて、来年度の赤穂中学校生徒会が始動します。保護者、地域の皆様も、彼らの活躍をどうぞご期待ください。